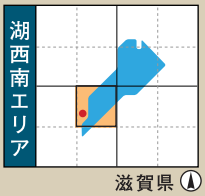
名勝史跡
国指定

光浄院庭園（こうじょういんていえん）

大津市園城寺町　昭和9年12月28日指定



三井の晩鐘として、近江八景に名をとどめる景勝の寺、園城寺には、2カ所の名勝庭園が伝えられています（善法院庭園：学習シートNo.108）。このうち、光浄院庭園は、桃山時代の代表的な住宅建築の様式を残す遺構として、国宝に指定されている光浄院客殿の南に造られた、池泉鑑賞式の庭園です。

当時のできごと	
1438年	永享の乱が起きる
1595年	蒲生氏郷・豊臣秀次没す
1601年	家康、東海道伝馬制を制定

光浄院について

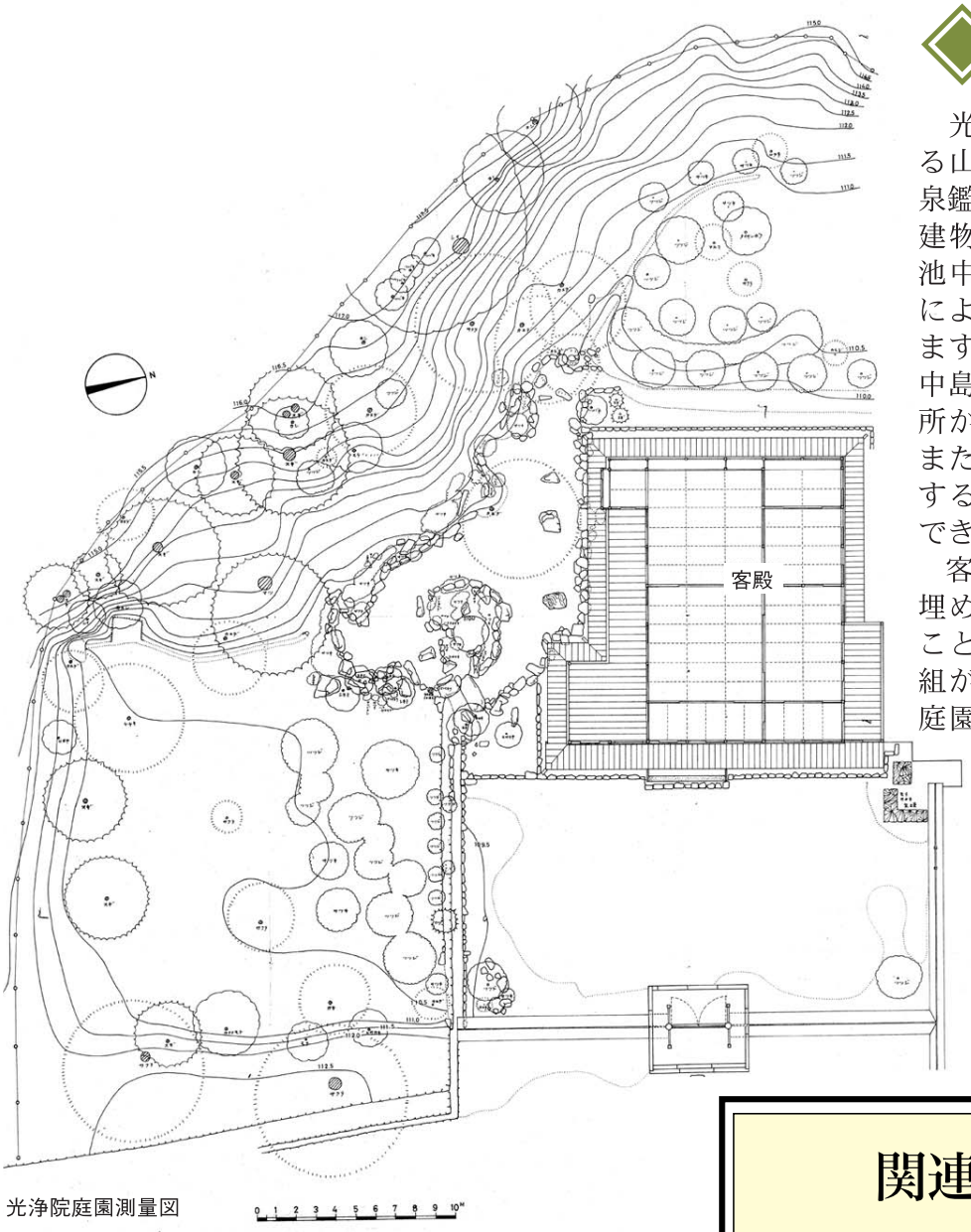
光浄院は園城寺の子院の一つで、永享年間（1429～41）に甲賀武士の流れをくむ美作守資広（山岡氏）が剃髪をし、光浄院と号し、園城寺の十円坊の廃墟に堂を建立し、光浄院としました。その後、資広の三男が出家し、光浄院を継ぎ、以後山岡氏の宗家の庶子が光浄院を相続するようになります。文禄4年（1595）豊臣秀吉による一山破却に遭い衰微しますが、慶長6年（1601）に客殿が建てられ復興します。庭園の主要な部分は、建物との位置関係から、客殿よりも古い時代に造られたと考えられています。



光浄院庭園（写真提供：園城寺）



光浄院庭園（写真提供：園城寺）



光浄院庭園測量図

光浄院庭園

光浄院庭園は、客殿の南に広がる山裾の地形を巧みに利用した池泉鑑賞式庭園です。池の北側の汀は、建物の縁に沿って直線的に延び、池中にこれも縁に沿うように三石による夜泊石風の浮石が据えられます。池の東には亀島に相当する中島が設けられ、ここに向かい2カ所から自然石の橋が架けられます。また、対岸の汀には、枯滝を象徴する立石の護岸石組を見ることができます。

客殿の縁下の石組は、池の一部を埋めて築かれていると想定されること、客殿の主室から山側の汀石組がよく鑑賞できないことから、庭園の主要部分は、客殿が建てられる以前からあったと考えられます。

関連する文化財

光浄院客殿（国宝）（大津市）	慶長6年(1601）再建。桃山時代書院造りの典型。桁行七間、梁間六間、一重入母屋造、妻入、正面軒唐破風付、柿葺き。障壁画は重要文化財指定
園城寺境内（大津市）	三井の晩鐘で名高い。国宝の本堂を始め多くの堂舎が立ち並ぶ。また観音堂は西国三十三観音霊場として賑わいを見せる

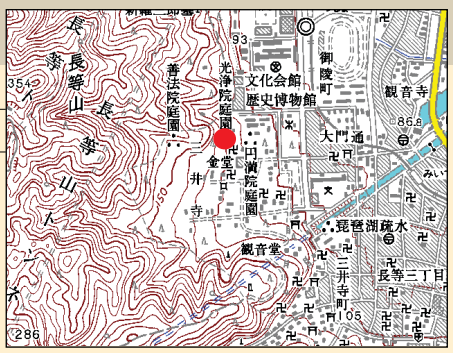
もっと深く知りたい

大津市歴史博物館　☎077-521-2100　大津市御陵町2-2

大津市教育委員会　☎077-528-2638　大津市御陵町3-1

※この庭園は通常は非公開となっています

光浄院庭園へのアクセス　JR湖西線　西大津駅下車
京阪電鉄石坂線　別所駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔日本庭園史体系〕社会思想社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月